

## 施設紹介（後期研修プログラム紹介）

# 岡山県北の奈義町（人口6千人）と津山市（人口11万人）をフィールドに心優しく頼りになる家庭医を育てるプログラムが生まれました！（奈義ファミリークリニック・津山中央病院家庭医療後期研修プログラム）

松下 明

特定医療法人清風会 奈義ファミリークリニック

### 歴史的背景

平成7年に奈義町と医療法人清風会日本原病院、川崎医科大学総合診療部による第3セクターの形式で家庭医療の実践と教育を行うシステムが開始され、2年単位での後期研修医受け入れを11年間行ってきました。卒業生13名のうち開業医6名と大学総合診療部スタッフ3名を輩出してきた歴史があります。

平成18年度からは大学から独立し、津山市にある津山中央病院（525床）との連携のもと、日本家庭医療学会認定の家庭医療後期研修プログラム（3年間）を立ち上げました。

### 後期研修プログラムの特徴

3年間を通して継続した診療所研修を行いながら、急性期医療・慢性期医療・在宅診療と家族志向のケア・行動科学を融合した研修を可能にしました。指導医である松下が日本で3年間、米国で3

年間の合計6年間かけて行った家庭医研修を3年間の後期研修で学べる凝縮したプログラムです（初期研修の場は問いません）。

最も重要視しているコンセプトは「生物・心理・社会モデル」（図1）と「家族の木」（図2）です。

図2 家族の木



患者の背景にある家族の存在に医師が目を向けている（McDaniel SH et.al. 2005より）

図1 生物・心理・社会モデル

地球 ⇄ 国 ⇄ 地域 ⇄ 家族 ⇄ 個人 ⇄ 臓器 ⇄ 細胞 ⇄ 原子

（経験・行動）

← 専門医 → → → →

← ← ← ← 家庭医 → → →

G.Engel 1977 より一部改変

## 施設紹介（後期研修プログラム紹介）

これは、戦後の米国を中心に日本にも広まった、病理学・細菌学を中心とした、病態を分解してその原因を治療することで対応する、生物医学的アプローチとは異なったやり方です。

体の不調を訴える患者さんの多くは特定の臓器の障害が見つけれず、自律神経のバランスが乱れて生じる病態がみられます。そのとき、家庭医に求められる能力は個人から左の方向へ（図1）ベクトルの向きを変えて、家族や職場など本人を取り囲む周囲の状況に目を向け、そこに本人の体調不良の原因を見出したり、治療の糸口を探ることです。

別の例を挙げるなら、心筋梗塞は細胞レベルで

心筋の虚血がありますが、個人レベルでは食習慣の乱れが関与し、家族レベルでは単身赴任に伴う外食の増加や孤独感、地域レベルでは職場での昇進や残業増加にともなう過重労働の影響など、ひとつの現象に様々なレベルで問題が生じている事が分かります。

家庭医は臓器別専門医のように、臓器へベクトルを向けて治療（右側）する必要も多くありますが、状況に応じて家族や職場・地域（左側）に目を向けていかななくてはならないのです（図1）。

家族のレベルからここに取り組むのが「家族志向のケア」で、日々の個人との面談で「家族の木」を意識した診療（図2）を行うことが重要です。患者さん本人に影響し、そして影響される家族の存在を意識して、こういった診療をするために電子カルテでの家族図（図3）を活用しています。

上記のコンセプトを重視しながら、年齢性別に関わらず0歳から100歳までの患者さんとその家族に、地域丸ごとで関わっていく醍醐味を感じてもらい、3年間という短期間でもより深い、家族単位での継続性を実感できる仕組みとなっています。

### 具体的な研修プログラムの紹介（図4・5）

卒後3年目の初年度は津山中央病院での重症患者を含めた急性期医療と救急医療を中心に、内科（ICU/CCU含む7ヶ月）・小児科（3ヶ月）・選択科（2ヶ月）研修を行い、同時進行で週1日の診療所研修を継続します。家庭医の足腰を鍛える1年間ですが、岡山県北の救急車が集まるこの病院では短期間で数多くの疾患と出会い、診療所外来や在宅・特養での急性疾患の対応に自信が持てるようになると同時に、上部消化管内視鏡・腹部



図3 電子カルテでの家族図

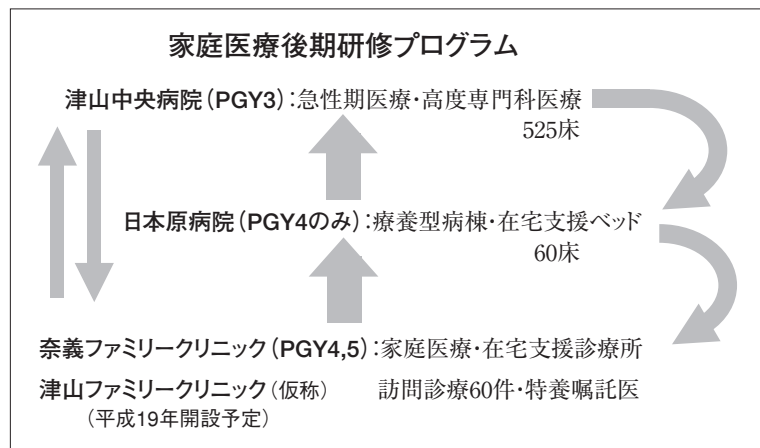


図4 後期研修ネットワーク

# 施設紹介（後期研修プログラム紹介）

図5 週間スケジュール

奈義ファミリークリニック 週間スケジュール例 2008年の予定

	月曜日			火曜日			水曜日			木曜日				金曜日		
	松下	PGY-5	PGY-4	松下	PGY-5	PGY-4	松下	PGY-5	PGY-4	松下	PGY-5	PGY-4	PGY-3	松下	PGY-5	PGY-4
朝	病棟回診			勉強会(7:30~)												
午前	外来	プリセプター	外来/外来	(新診療所) 管理業務	外来	日本原/外来	外来	外来	研修/日本原	プリセプター	地域連携 自衛隊	日本原/研修	外来/外来	外来	外来	外来/日本原
昼	カルテチェック			スタッフミーティング			在宅ミーティング			カルテチェック				臨時ミーティング		
地域保健	往診または検診	研修	往診または検診	管理業務	なきみ苑	往診/日本原	往診または検診	往診または検診	往診または検診	勉強会				なきみ苑	往診	日本原/往診
			カルテチェック	カルテチェック		カルテチェック										
午後	外来		外来/日本原	プリセプター		外来/外来	外来	外来	日本原/地域連携					外来	外来	地域連携/外来

エコー・心エコー検査などの技術研修も行うことができます。

卒後4年目と5年目は診療所での外来・在宅診療を行いながら、週1回の院外専門科外来研修を行い、診療所での診療に必要な領域を少しずつブラッシュアップしていきます。皮膚科・整形外科・産婦人科・精神科・眼科・耳鼻科など地域の開業医や一般病院の外来で学ばせていただき、身につけた技術を診療所の外来と訪問診療に生かすプロセスが家庭医研修の要となります。

平成19年度からは津山市内に都市型クリニックを新設し、若い家族をターゲットとした家庭医外来診療と人口11万人の津山市を舞台に広範囲の在宅診療を展開していきます。田舎型診療所の奈義ファミリークリニックと同時進行でこちらの外来と在宅を経験します。

母体病院の日本原病院は在宅支援を目的とした療養型病棟ですが、オープンベッドとして後期研修医が主治医として継続加療できる仕組みも開始する予定です。

4年目と5年目は日本原病院の当直のほか、月1回は津山中央病院の夜間小児科外来を午後10時まで応援する制度に参加することで、小児の重症患者への接触を継続したり、津山中央病院へ入院中の自分の患者さんを訪問したりする機会を得ています。

教育スケジュールとしては、外来プレセプティングのほか、3年目と4年目に対する毎日のカルテチェック、往診患者のカルテカンファレンス、行動科学領域のレクチャー、年2回は模擬患者を交えたロールプレイ、生物医学の各領域を網羅するIn-Training Exam、などを木曜日の教育日を中心に行っています。

最近ではレジデント自らの発案で毎月、後期研修医がそれぞれの1ヶ月間のふり返りをパワーポイントで発表したり、生物・心理・社会アプローチが必要と思われる症例を深く検討するケースカンファレンス、医療事務主任による医療保険レクチャーなども継続して行っています。

## 後期研修の評価

毎月の振り返り発表による形成的評価の他、毎月のIn-Training Exam、年2回のポートフォリオ

## 施設紹介（後期研修プログラム紹介）

面談，最終学年には家族志向のケアワークショップを家庭医療学会や外来小児科学会で提供し，最後に3年間の振り返る総括を全スタッフの前で発表することを義務付けています。

将来，行われる予定の家庭医療学専門医試験の受験資格が得られるよう，現在は準備しています。

### 募集要項

平成20年度後期研修医を卒後3年目枠で2名，卒後4年目枠で2名募集します。

卒後3年目枠は3年間の家庭医療学会認定後期研修プログラムです。

卒後4年目枠は津山中央病院での研修を除いた，2年間コースで診療所研修の内容は上記プログラムに準じたものです。

5月から6月に募集を行いますので，JAFMメーリングリストや当診療所のホームページなどでご確認下さい。（<http://nagifamily.com/>）

### 奈義ファミリークリニックの「ファミリー」紹介

#### 指導医

松下 明

平成3年 山形大学卒業 川崎医大総合診療部 初期後期研修  
 平成8年 米国ミシガン州 Genesys Regional Medical Center 家庭医療レジデント（3年間）  
 平成11年 川崎医大総合診療部講師  
 平成13年 奈義ファミリークリニック所長（現職）  
 米国家庭医療学専門医，日本プライマリケア学会認定医・指導医  
 日本内科学会認定医  
 三重大学臨床助教授 川崎医大非常勤講師 日本家庭医療学会理事  
 著書 家族志向のプライマリ・ケア 監訳 2006 シュプリンガー東京

田中久也

平成12年 川崎医大卒業 川崎医大総合診療部 初期研修  
 平成14年 筑波メディカルセンター 救急総合診療科・緩和医療研修  
 平成15年 西伊豆病院 整形外科・内科・地域医療研修  
 平成16年 千葉西病院 小児科研修  
 平成17年 奈義ファミリークリニック後期研修  
 平成19年5月より津山ファミリークリニック所長就任

#### 後期研修医

佐古篤謙（平成14年滋賀医大卒）

臨床心理士として就職後再入学した逸材。耳原総合病院で初期研修後 小児科後期研修

吉本 尚（平成16年筑波大卒）

北海道函館市出身 本物の家庭医を目指し岡山へ。勤医協中央病院にて初期研修終了

問い合わせ：松下 明

akimat@mb.infoweb.ne.jp